

神田外語大学 留学生別科

2022年 秋学期

科目概要

【選択科目】



目次

科目名	履修できるレベル							ページ
	1	2	3	4	5	6	7	
発音1・2	●	●						... 1
発音3・4			●	●				... 3
発音5・6					●	●		... 5
自律学習1・2・3	●	●	●					... 7
自律学習4・5・6				●	●	●		... 9
読む聞く1・2	●	●						... 11
読解3・4			●	●				... 13
読解5・6					●	●		... 15
初級文法演習2・3		●	●					... 17
中級文法演習4・5				●	●			... 18
上級文法演習6・7						●	●	... 20
口頭表現2・3		●	●					... 22
口頭表現4・5				●	●			... 24
口頭表現6・7						●	●	... 27
文章表現4・5				●	●			... 29
文章表現6・7						●	●	... 31

科目名	履修できるレベル							ページ
	1	2	3	4	5	6	7	
ビジネス文化入門4・5				●	●			... 33
ビジネス文化入門6・7						●	●	... 35
社会文化入門1・2・3・4	●	●	●	●				... 38
社会文化入門5・6・7					●	●	●	... 40
時事日本語6・7						●	●	... 42
日本語文化7							●	... 45
<i>Japanese Sociolinguistics</i>	●	●	●	●	●	●	●	... 47

* CPJS (Certificate Program in Japan Studies)科目は英語版の科目概要にあります。

* 科目概要の内容は変更される場合があります。

発音1・2	若月 理恵	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		金曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が10名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、音や拍・リズム、アクセント、イントネーションなどの日本語の発音について勉強します。

コース終了後にも、自分の発音を内省し学習を継続できることを目標とします。そのための下地作りとして、授業では自分の発音の特徴やクセを理解し、自分に合った練習方法を考えます。

ほぼ毎回、課題として録音データを提出します。翌回のフィードバックでは、クラスメイトと録音内容を聴きながら気づきを共有します。

初回と第14回に、同じ内容の発話を録音し、ビフォーアフターを比べます(最終課題)

学習内容(予定)

履修学生の母語、ニーズにより、内容、回数は柔軟に対応します。

- ・自己紹介とその時に注意すべき点
- ・日本語の五十音(清濁音、拗音を含む)
- ・拍とイントネーション
- ・特殊音(長音、促音、発音)
- ・動詞、形容詞、名詞のアクセント
- ・相槌とフィラー

教材

内容によってハンドアウト配布予定 (Google Classroom上でデジタルも対応予定)

<主な参考教材>

『毎日練習!リズムで身につく日本語の発音』スリーエーネットワーク

『5分でできる にほんご 音の聞きわけトレーニング』スリーエーネットワーク

『初級文型でできる にほんご発音アクティビティ』アスク

『シャドーイングで日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク

OJAD (Online Japanese Accent Dictionary) <http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・授業では全体活動の一環として、発音の修正を受けたり、発音データを聞いてコメントを出しあう機会が多くあります。臆せず発信しましょう。
- ・授業内で課題の録音活動を行います。mp3またはmp4でデータ提出するためのデバイスを持参してください。
- ・フィードバックには講師と1:1でのコンサルテーションを含みます。録音データを聞くのため、有線のイヤフォン／ヘッドフォンの持参を薦めます。

発音3・4	高橋 亘	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		火曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が10名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、音や拍・リズム、アクセント、イントネーション、プロミネンスなどの日本語の発音について勉強します。

授業では、発音の練習方法やツールを紹介します。その中から、自分に合う方法やツールで練習して、苦手な発音を直します。また、クラスメイトとの発音練習や活動をして、教師やクラスメイトにフィードバックをもらいます。

課題としては、授業中に勉強したことをレコーディングして、提出します。最終課題としては、発音についての活動をクラスで発表します。

※授業内容は変更する可能性があります。

学習内容(予定)

拍とリズム

アクセント

イントネーション

長音・促音・撥音

区切り、ポーズ／プロミネンス

教材

授業で配布、紹介します。

OJAD(Online Japanese Accent Dictionary) <http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

スマートフォンなど音声を録音できるデバイス、そして音声を聞くヘッドフォンを持参してください。

授業では、教員やクラスメイトから履修者の発音に対してフィードバックがあります。自分の間違いを恥ずかしがらずに、たくさん練習できる方を歓迎します。

発音5・6	稲葉 和栄	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		火曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が10名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、日本語の音やリズム、アクセント、イントネーションなど日本語の発音に関するさまざまな要素について学びます。個人練習だけでなく、ペアやグループ練習を行いながら、自分の発音上の問題点に気づき、それに必要な練習を行います。

授業では、各学生が自分の発音を録音し、それを教師やクラスメイトと一緒に確認し、課題や改善点を考える活動も取り入れます。

この授業の1つめの目標は、教師やクラスメイトのフィードバックを得ながら、自分の発音の特徴を理解することです。2つめの目標は、自分の特性に合わせた効果的な発音の学習方法は何かを考え、教室以外でも持続して自分の発音に意識を向けられるようにすることです。効果的な学習方法を探るために、「発音や音声の基本的な知識(知識)」「音を聞き理解できる練習(理解)」「音を出す練習(産出)」を授業で扱います。説明はすべて日本語でおこないます。また、発音練習に役に立つ動画の紹介やインターネットツールも授業の中で紹介します。

学習内容(予定)

授業で扱う、具体的内容を以下にいくつか挙げます。履修する学生のニーズに合わせて、授業で取り扱うトピックは、履修する学生のニーズに合わせて柔軟に対応していきます。

- ①印象に残る自己紹介と発音
- ②日本語の音(五十音・外来語音(例:カタカナで表記される音)など)

- ③日本語のリズムと拍感覚(例:フット)
- ④話し言葉の発音(縮約形(例:パソコン)、無声化(例:「山田です」の「す」)
話し言葉のロールプレイ(ペア・グループワーク)
- ⑤名詞のアクセント(頭高型・中高型・尾高型・平板型・アクセント核)
- ⑥イ形容詞と動詞のアクセント(活用語尾のアクセント)
- ⑦イントネーション(イントネーションと表現意図(例:上昇調・下降調・平調))

教材

『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』 戸田貴子 著、スリーエーネットワーク、3,300円、 ISBN: 9784883192953

成績評価

授業参加度 20%

課題(録音提出含む) 60%

発表(ロールプレイ)20%

履修上の注意点

課題の発音を録音し提出するために、スマホやICレコーダーを準備すること。

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

クラスメイトの前やペアで自分の発音を発表したり、録音した発音をみんなと一緒に聞いてフィードバックをもらう活動があります。自分の発音に対してみんなの意見を聞くのと同時に、クラスメイトの発音に関しても自分が気が付いたことを発信しましょう。

自律学習1・2・3	上原 由美子	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		水曜日2限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは日本語能力および自律学習能力を養うことを目的とします。学生は伸ばしたいと思う技能や知識、興味のあることなどについて目標や学習内容を自由に決め、学習計画を立てて、それに基づいて学習を進めます。そしてその日の学習がどうだったか、毎回の授業が終わったときに学習日誌を書いて、ふりかえりをします。教師は、学生に教材や学習方法を紹介したり学習に関する様々なアドバイスをしたりすることを通して、それぞれの学生が自分にあった学習の方法が見つけられるよう協力します。学生は、学習方法などについて教師に相談することができます。

学習内容(予定)

1学期を3サイクルに分けます。1サイクルの学習(4回)が終わったあと、5回目にクラスメイトと学習成果や学習方法などについて共有します。1サイクルが終わったら、次のサイクルの目標を立てて、学習を進めます。

1回目	目標と学習計画を立てる。	×3サイクル
2回目	自分が計画した学習をする	

3回目	自分が計画した学習をする	
4回目	自分が計画した学習をする	
5回目	学習成果やふり返りを発表(共有)する。 次のサイクルの目標を考える。	

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

課題(毎回の学習成果、学習日誌)60%

発表・共有(各サイクルの最後) 20%

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・授業中は、自分で立てた目標にしたがって学習を進めます。他のクラスの課題やテストのための勉強などをすることはできません。

自律学習4・5・6	小林 久美子	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		水曜日2限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは日本語能力および自律学習能力を養うことを目的とします。学生は自分で作った計画に基づき、伸ばしたいと思う技能や知識を選び、学習を進めます。そしてその学習がどうだったか、終わったときに振り返りをします。

教師は、学生に教材や学習方法を紹介したり学習に関する様々なアドバイスをしたりすることを通して、学生が自分にあった学習の方法が見つけれられるよう協力します。

※マンガ、音楽、料理、ファッションなど自分の好きなテーマを選んで、関連のある日本語を学習することもできます。

※サイクル1、サイクル2、サイクル3で同じテーマを選んでもかまいません。また、違うテーマを選ぶこともできます。

学習内容(予定)

全体を3つのサイクルに分けて、自分の学習を行います。(学習計画と目標設定、毎週の学習、サイクルのふりかえり)。そのほかに効率的な学習の方法を勉強します。

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

計画と振り返り 60%

課題 20%

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となる。
- ・毎回の授業に出席し、学習した内容は必ず報告する。
- ・自律学習の時間に他の科目の課題をしない。
- ・自律学習の時間は自由時間ではないので、関係のないことはしない。
- ・サイクルに入ったら計画していないことを勉強してはいけない。(「来週他の科目のテストがあるから今日は学習計画にある勉強をしないで、来週のテストの準備をする」「今日の午後プレゼンテーションがあるから、その準備をしたい」などは不可)

読む聞く1・2	安部 智恵子	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		木曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、さまざまな読み・聞き of 自律的な活動を通し、読解力と聴解力を総合的に伸ばすことを目的としたコースです。

学習内容(予定)

授業には「読む時間」「聞く時間」「活動の時間」の3つがあります。

「読む時間」「聞く時間」では、クラス全員で同じものを読んだり聞いたりするのではなく、一人一人が自分で読みたいもの・聞きたいものを選び、各自で読む・聞くを行います。講師が用意した本やCD、オンライン上のリソースを使って、自分の興味のある教材をたくさん読み、たくさん聞く、自律的な「多読・多聴」を行います。

「読む時間」では、シャドーイングや音読、速読なども行います。

「聞く時間」では、本の朗読を聞きながら読んだり、日本語の動画を見ながら聞いたりすることもできます。

授業で読んだり・聞いたりしたものについては、学習記録(タイトルや楽しさ、感想など)を書きます。自分の記録なので母語での記入も可能です。

「活動の時間」では、その日に読んだ本の印象的なことばやページ、好きな登場人物をクラスメイトと共有するブックトークを行います。他にも、キャラクターに手紙を書いたり、話の続きを考えたり、ブックレビューを書いたりなど、いろいろなアクティビティをします。

コースの最後には、多読・多聴でインプットしたことを使って自由に表現する作品制作を行います。創作物語や旅行日記、母国の文化や伝説、マンガやゲームなど、自分のアイデアを自由に表現するプロジェクトです。ビジターを招いて作品の発表会を行います。

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 40%

課題 60%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業ではオンライン上のリソースも使います。ノートPCやタブレット、イヤホンを持参してください。

読解3・4	安部 智恵子	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		木曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

授業では様々なタイプの文章を通して、日常的で身近な話題、あるいは自分が興味のある話題等のテキストの内容が理解できるようになることを目指します。

学習内容(予定)

読解教材はエッセイ、物語、説明文、資料、ニュースなどのプリントを授業で配布します。

読み物の種類や読む目的に応じていろいろな読み方を練習します。

- ・予測しながら読む(物語 など)
- ・分からない言葉を推測して読む(物語、エッセイ など)
- ・情報を探しながら読む(旅行案内、お知らせ、ニュース など)
- ・辞書を引いたり、調べたりしながら丁寧に読む(説明書、専門書 など)
- ・実際にやってみながら読む(マニュアル、説明書)

内容やテーマについて、自分の考えを話したり、クラスメイトとディスカッションをしたりして、理解を深めます。また、内容を要約してクラスメイトに説明する練習もします。

精読した読み物について、内容理解を確認するクイズをします。

次回の読み物について、語彙や文法、テーマに関する予習シートを課題とします。

教材

プリント配布

成績評価

授業参加度 20%

定期テスト 30%

課題 50%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

読解5・6	藤岡 亮子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

授業では様々なタイプの文章を通して、日常的で身近な話題、あるいは自分が興味のある話題等のテキストの内容が理解できるようになることを目指します。

到達目標 ★難易度

- ・日本語の様々な文章を読む技術<読解ストラテジー>を身につける【全員共通】
- ・わかりやすい説明文や論説文を読んで、文章の内容を理解することができる ★★★
- ・様々な分野の社会的・専門的な文章の原文の内容を理解することができる ★★★★★

学習内容(予定)

- 1) 毎回の授業の始めに日本語の文を読む技術(読解ストラテジー)を理解し、練習する。
- 2) 日常生活に必要な文章、日本に関する評論や新聞記事、社会的・専門的な文章を読んで理解を深め、【話の流れや著者の考えを理解する／詳細な表現意図を理解する】。
 - I. 日常生活での読み物(メニュー、観光パンフレット、ニュース記事など)
 - II. 日本に関する読み物(日本人の行動様式、日本語、文学作品、時事、人物、生活)

Ⅲ. 各分野に関する読み物(メディア、科学技術、教育、通訳、環境など)

Ⅳ. 専門分野の研究論文

3) 文章を読んで、さらに調べたり、自分の考えをまとめて討論する。

教材

毎回プリントを配布する。

成績評価

授業参加度 20%

課題Ⅰ 50%

課題Ⅱ 30%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

初級文法演習2・3	小林 久美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

文法の意味や用法、使い分けを理解し、文法能力を高めます。また文法の学習方法を習得します。授業は学生が予習をしていることを前提に行います。

学習内容(予定)

教科書の中からいくつかの課を選んで学習します。主にJLPTのN5～N4レベルを学びます。

教材

『どんなときどう使う 日本語表現文型200 初中級』アルク

成績評価

授業参加度 20%

クイズ 40%

課題 40%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

中級文法演習4・5	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

学習する文法を用いた活動をしなが、文法の意味や用法、使い分けを理解して、文法能力を高めます。また、文法の学習のしかたを身につけます。

授業は学生が予習(テキストを読んてくること)を前提に行います。

学習内容(予定)

教材テキストの以下の課を扱います。

- ・22課(不可能・可能・困難・容易)
- ・23課(傾向・状態・様子)
- ・24課(経過・結末)
- ・25課(否定・部分否定)
- ・26課(伝達・推量)

N3・N2の表現を学びます。(N1の表現は扱いません)

1課が終了するごとに、クイズをします。

1課が終了するごとに、学んだ文法を使った文や会話を作る課題を出します。

クラスでは、学習する表現について学習者同士で教え合い、表現を用いたいろいろな活動を行います。

教材

『どんなときどう使う 日本語表現文型500』アルク

成績評価

授業参加度 20%

クイズ 40%

課題 40%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

上級文法演習6・7	上原 由美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

今学期は、上級の学習者がレポートや論文を書くために必要な書き言葉の文法を学習します。文単位の文法だけでなく、まとまった文章を書くための文法について、特に間違えやすい項目、わかりにくい項目をとりあげ、適切で自然な文章が書けるようになることを目指します。ペアやグループでの活動も多く取り入れます。授業は学生が予習をしていることを前提に行います。

学習内容(予定)

主に、教材の以下の課の内容を学習します。

第1課: 書き言葉に統一する(文体と表現)

第2課: 文の意味を明確にする(複文)

第6課: 文を首尾一貫させる(呼応)

第7課: 形が似ている表現を使い分ける(助詞相当語)

第8課: 「は」と「が」を使い分ける(助詞)

第10課: 過去と現在のつながりを示す(ル形・タ形・テイル形・テイタ形)

第11課: 文章の中の語を指し示す(「こ」と「そ」)

第12課: 前後の関係を表す(接続詞・接続表現)

第14課: 効果的に意見を述べる(文末表現)

1つの課について、1～2週間かけて学習します。

毎週、教科書の練習問題や短い文章を書く課題があります。

1つの課を学習した後でクイズがあります。

教材

『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

成績評価

授業参加度 20%

クイズ 40%

課題 40%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

口頭表現2・3	李 榮	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		火曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

学習内容(予定)

「あいさつや自己紹介をする」「場所・時間・値段を聞く」「日頃のルーティンや週末の過ごし方について話す」など、日常的なトピックを取り上げ、モデル会話を勉強します。その後、ペアやグループで短いスキットを作り、練習をします。練習が終わったら、動画を撮って提出してください。また、ビジターセクションでは、習った表現を使って、「初めて会う人」と会話をします。学期の最後には、おもしろい動画を作って、発表会をします。

教材

授業で配布、紹介します。

※参考書

「新・わくわく文法リスニング100—耳で学ぶ日本語—」小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・梅田泉・三宅和子 凡人社

「新・シャドーイング 日本語を話そう！初～中級編」斎藤仁志・深澤道子・掃部知子・酒井理恵
子・中村雅子・吉本恵子 くろしお出版

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業には、必ず自分のノートPCかタブレットPCを持参してください。

口頭表現4・5	徳永 あかね	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

口頭表現4・5は、「Task先行型のロールプレイ」を使って日常生活で遭遇する場面や状況に必要な口頭表現を学習します。

毎回の授業では、これまで学習した日本語を使ってロールプレイ(role play)に挑戦します。ロールプレイをしたあとで、ロールプレイを振り返って場面や状況に適した日本語表現を確認します。最後に、その日に学習した表現を各自で練習し、録音して提出します。

コースの後半では、最終課題として自分の経験に基づいた場面のロールカードを作ります。そして、その場面での日本語の使い方をまとめてプレゼンテーションをします。

以上の15回の授業を通して、日常生活で遭遇する日本語でのコミュニケーション場面を自分で振り返り、必要な口頭表現を学んでいく力を養うことを目指します。

到達目標

(1)言語能力 (Linguistic Competence)

日常生活の場面で自分に必要な語彙や表現を整理し、実際のコミュニケーション場面における使い方を理解する。

(2) 社会言語能力 (Sociolinguistic Competence)

相手や場面に応じて適切な言葉や表現を選んで使い分けることを意識できる。

(3) 社会文化能力 (Sociocultural Competence)

日常のコミュニケーション場面において、出身国やこれまで滞在したことがある国と日本との違いを理解し、コミュニケーションの時に気をつけることができる。

学習内容(予定)

	授業日	授業内容	提出課題、ほか
1	9月19日(月)	* クラスオリエンテーション 第1課ユニット1(p.2-5)「注文のときに」	p.5「練習しよう!」
2	9月26日(月)	第2課 ユニット1(p.12-15)「授業のあとで」	p.15「練習しよう!」
3	10月3日(月)	第2課 ユニット3(p.20-23)「勘違い(かんちがい)」	p.23「練習しよう!」
4	10月10日(月)	第3課 ユニット1(p.30-33)「ルームメートと」	p.33「練習しよう!」
5	10月17日(月)	第3課 ユニット3(p.38-41)「あまり親しくはない人」と	p.41「練習しよう!」
6	10月31日(月)	★ビジターセッション これまで学習したロールプレイを実際にやってみます。	
7	11月7日(月)	第4課 ユニット1(p.48-51)「人について説明する」	p.51「練習しよう!」
8	11月14日(月)	第4課 ユニット3(p.56-59)「部屋の中を説明する」	p.59「練習しよう!」
9	11月21日(月)	第4課 ユニット6(p.68-71)「言い訳(いいわけ)をする」	p.71「練習しよう!」
10	11月28日(月)	第5課 ユニット5(p.90-93)「『晴れ』の日」	p.93「練習しよう!」
11	12月5日(月)	第6課 ユニット3(p.104-107)「説明会・発表会」	p.107「練習しよう!」
12	12月12日(月)	最終課題1: ロールプレイの状況、ロール案を考えて、表現や語彙を確認する。	どのような場面のロールプレイにするか考える。
13	12月19日(月)	最終課題2: ロールプレイに関するパワーポイントを作成する。	ロールプレイに必要な表現や語彙を考える。
14	1月16日(月)	最終課題3: 発表に向けて、クラス内で実際にやってみる。	発表のリハーサル

15	1月23日(月)	最終課題4: 自分たちが作ったロールプレーとその場面で必要な表現を発表する。	発表
----	----------	--	----

教材

『新版 ロールプレーで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社)

成績評価

【授業参加度 20%】

授業中への取り組み、課題への取り組み、ペア活動、グループ活動への参加態度を評価します。授業の出席や遅刻の有無についてもこの項目の評価に含めます。

【課題 50%】

①20% ロールプレーカードの予習

授業で行うロールプレーのカードを読み、状況を確認してください。また、自分だったらどのように言うかも考えておいてください。

②30% 教科書の練習課題

教科書の「復習しよう!」「練習しよう!」の提出状況の評価します。提出締め切りを守ったかどうかだけでなく、提出した内容についても評価します。「練習しよう!」は、録音し、ファイルをGoogle classroomに提出してください。

【最終課題 30%】

授業で学習したロールプレーを参考にして、「これまでに困った場面」のロールカードを作り、どのような表現を使ったら良いかのアドバイスをパワーポイントにまとめて発表をします。

履修上の注意点

1. この授業では、Google classroomを使用します。
2. ロールカード(role card)を読んで日本語を理解してから授業に出席してください。
予習してきていない場合にはロールプレーに参加できません。
3. 毎回の授業で他のクラスメートの前でロールプレーをしたり、話し合ったりします。

口頭表現6・7	藤岡 亮子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

到達目標

- ・時事的・専門的な事について、根拠のある意見を述べながらディスカッションやディベートができる。どんな場面や相手でも、適切な表現を使って、流暢に会話が続けられる。
- ・時事的・専門的な事について、論理的にまとめて発表できる。聞き手に配慮しながら、説明・論述できる。(東京外国語大学留学生日本語教育センター「AJ-Candoリスト」参考)

学習内容(予定)

- I. スピーチ...数字で自己紹介、失敗から学ぶ教訓、ニュース記事、なりきり通訳
- II. ディスカッション...異文化、AIと通訳
- III. ディベート...価値論題、政策論題
- IV. 調査発表...日本語の会話分析または専門分野に関するテーマ

教材

毎回プリントを配布します

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

文章表現4・5	瀬戸 彩子	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		木曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、文章を書くときに必要な日本語の語彙や表現、テクニックを身につける方法を学び、書くことの総合的なスキルアップを目指します。また、授業で取り上げた文章の内容から日本の社会文化についての理解を深め、日本語で書かれた文章の背景を理解するための知識を増やすことも目指します。

学習内容(予定)

以下のジャンルの文章を書きます。

- 1) 説明文(自分の国の料理、紹介したい町、など)
- 2) メール(先生への質問、大学スタッフへの問い合わせ、など)
- 3) 随筆(お気に入りのもの、最近考えていること、など)

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

文章表現6・7	加藤 林太郎	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		木曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、みなさんが母語などでは日常的に行っている「書くこと／読むこと」を日本語で行い、それを通して、これまでに学習した表現と、新しく出会う表現を組み合わせ、「自分らしい日本語」で文章が書けるようになることを目指します。また、身近にある日本語表現から自律的に学べるようになるための分析力も高めます。そして、授業で書いたものはSNSやウェブサイトなどに実際に発信します。

<授業目標>

- ①日本語を使って生活する中で出会う文字を使う行為について、それぞれの表現上の特徴や必要なスキルを学ぶ
- ②日本語で書かれたものを多く見たり読んだりすることで、いい表現の分析力を高める。
- ③文字を使ったタスクを通して、日本語で書くことへの苦手意識を解消する。

学習内容(予定)

- 1:”推し”をすすめる
- 2:イベントを宣伝する
- 3:リクエスト①:みなさんが扱ってほしい項目を募集します。

4:レシピを書く

5:レビューを書く

6:リクエスト②:みなさんが扱ってほしい項目を募集します。

7:物語を書く

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度30 %

課題 70%(提出率30% 達成度40%)

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

ビジネス文化入門4・5	若松 由美	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		火曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

ビジネス文化入門4・5では、アルバイトなど、身近な場面や、将来、企業やその他の職場で必要とされるビジネス・コミュニケーションについて理解することを目指します。また、ビジネス場面で使われる日本語表現や、コミュニケーションに必要な日本語の使い方を学び、母国との違いなどについて考えます。

<授業の目標>

1) 言語能力

ビジネス日本語の基本的な表現を学び、実際に使えるようになる。

2) 社会言語能力

日本人と日本語を使う職場で仕事をするとき、どの程度の丁寧さで話すことが適しているかを理解する。

3) 社会文化能力

ビジネスの場面の短いスキットを使った練習をしながら、日本の仕事の場面、例えば就職活動をするときに、必要な社会文化を理解する。

将来のキャリアプランを考えるときに、これから先、日本の社会文化をどのように身につけていくべきかを含めて考えていくことができるようにする。

<毎回の授業の流れ> *前半の回を例に

授業の前に事前に配布した資料を読み、各自予習の課題をします。

課題について考えたことをクラスで話し合います。

第1回は、社内と社外の自己紹介の違いを学びます。その後の前半の授業では、簡単なビジネスメールを実際を書く練習をします。また、電話応対を授業の中で練習します。ビジネスメールで書いたメールを課題として提出します。電話応対は会話を録音して、課題として提出します。

学習内容(予定)

第1回～第5回

社内と社外の自己紹介・ビジネスメールの書き方・電話応対(入門レベル)

第6回～第10回

敬語(ウチとソトの使い分け)・ビジネスマナー(入門レベル)

第11回～15回

アルバイトや就職の面接の受け方(入門レベル)

ビジネスの場面でのプレゼンテーション(入門レベル)

(プレゼンテーションの仕方・スライドの作成・プレゼンテーションの練習・発表)

※発表が最終課題

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

クイズ 10%(敬語)

課題 40%(各回の予習課題とまとめの課題)

最終課題 30%(ビジネス・プレゼンテーション)

履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

ビジネス文化入門6・7	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		火曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

グローバル化した社会において、異なる文化的背景を持つ多様な人々と働く場面は増えていきます。そのため異文化の人々とのビジネス場面で、お互いが予期しない衝突が生じることがあります。このコースでは、現実のエピソードをもとに描かれた異文化衝突のビジネス場面のケースを教材として、その問題点についてディスカッションし、協働的に解決方法を見出すことを目指します。また、ビジネス会話やビジネスメールに必要な表現を学び、母語との違いを理解します。

<授業の目標>

- ①フォーマルな場面やビジネス場面において適切なコミュニケーションができる。
- ②異文化のビジネス場面で生じる問題点を発見し、解決方法を見出すことができる。
- ③日本のビジネスの習慣や文化について知り、コミュニケーションに応用できる。

<授業の構成>

ほぼ毎回の授業で、異文化のビジネス場面におけるケースの問題点を発見し、その解決方法について話し合います(ケース学習)。授業の前に、各ケースの資料を読んで、自分ならどう行動するかを考えてワークシートに書きます(事前準備の宿題)。問題解決のために必要なビジネス場面における習慣や文化、日本語コミュニケーションの表現について学びます。

また、指定テキストを用いて、ビジネス会話の流れや必要な表現を学び、コミュニケーションに応用します。授業で扱ったビジネス日本語表現の確認のため、クイズを4回行います。ケース学習の最終課題として、課題のケースを分析し、解決策を会話形式で示したレポートを提出します。

学習内容(予定)

回	日にち	授業内容・活動	クイズ	ケース学習・活動
1	9月20日	オリエンテーション		オレンジ
2	9月27日	1課 自己紹介(社内)		C1能力 (1課)
3	10月4日	2課-1 自己紹介(社外) ①		C2-1お茶くみ(2課)
4	10月11日	2課-1 自己紹介(社外) ②		C2-2お茶くみ(2課)
5	10月18日	2課-2 自己紹介(社外) ③	クイズ1課	課題のフィードバック
6	10月25日	3課-1 電話を受ける ①		C3-1家庭と仕事(3課)
7	11月1日	3課-2 電話を受ける ②		C3-2家庭と仕事(3課)
8	11月8日	4課-1 アポイントを取る	クイズ2課	
9	11月15日	4課-2 アポを変更する ①		C4-1資料(4課)
10	11月29日	4課-3 アポを変更する ②		C4-2資料(4課)
11	12月6日	4課-3 アポを変更する ③	クイズ3課	ビジネスメール
12	12月13日	5課-1 会議に参加する ①		
13	12月20日	5課-2 会議に参加する ②		最終課題の説明と準備
14	1月10日	最終課題のフィードバック	クイズ4課	
15	1月17日	ケース学習の振り返り		

教材

『上級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語』村野節子・山辺真理子・向山陽子著
スリーエーネットワーク

成績評価

宿題 20%: ケース学習のワークシートやその他のワークシートを書いて提出します。

クイズ 10%: 授業で学んだ表現を確認するクイズを4回実施します。

振り返り 20%: 課題・最終課題のあとで自己評価・他者評価を書いて提出します。

課題 20%: 社内における自己紹介のための動画を作成して提出します。パフォーマンスをルーブリックで評価します。

最終課題 30%: 指定のケースに関するレポートを書いて提出します。内容をルーブリックで評価します。

履修上の注意点

1. クイズ以外の評価は日本語能力によっておこないません。
2. ディスカッション中心のクラスなので、積極的な参加が必要です。
3. 課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点になります。
4. クイズの追試(メイクアップ)はしません。
5. 授業中に資料の配布やワークシートの提出はオンライン上で行うため、各自パソコンまたはタブレットを持ってきてください。

社会文化入門1・2・3・4	若月 理恵	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		金曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、初中級の留学生のために簡単な日本語と簡単な英語で行われる、日本と日本社会について理解を深めるコースです。日本の地理や自然災害など、日本の生活に関連する知識を学びます。また、日本の社会と文化について、調査やプロジェクトを通して学習します。学生の興味や疑問を積極的に取り入れながら、プレゼンテーションやグループディスカッションをして、様々な意見や考えを理解します。

学習内容(予定)

第1回: ガイダンス、アイスブレイク、アプリ/コミュニケーション手段の設定など

第2～4回: インフォメーションセッション(日本の地理、日本での生活情報)

- ・日本での生活に関する知識を学びます。
- ・クイズの出題範囲となります。

第5～12回: リサーチ&プレゼンテーションプロジェクト(最終課題)

- ・自分たちで興味のあることや知りたいことをリサーチします。KUISの学生にアンケートしたりインタビューをしたりします。

- ・リサーチしてわかったことをまとめて、プレゼンテーションします。
- ・クラスメイトのプレゼンテーションを見た後、クラスで話し合います

第13～14回: ディスカッション・ラウンド

- ・クラスで決めたトピックについて話し合います

第15回: 振り返り

その他: 上記の他に、KUIS学生との合同授業など、交流イベントを行う予定です

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

クイズ 10%(インフォメーション・セッションより)

課題 30%(授業準備、ふりかえり)

最終課題 40%(リサーチ&プレゼンテーション・プロジェクト)

履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・クラスでは自分なりの意見や見解を述べることが求められます。簡単な日本語、または簡単な英語で意思疎通できることが必要となります。(辞書、翻訳ツール活用可)
- ・最終課題(リサーチ&プレゼンテーション・プロジェクト)では、各自PC/タブレットの持参が望ましい。

社会文化入門5・6・7	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		金曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、中上級の留学生を対象に、文化および社会について理解を深めるコースです。文化・社会を固定的にとらえるのではなく、話し合いや他者とのインターアクションによって様々な価値観を理解し、学習者が主体的に考えることを支援します。学習者は文化・社会に関するテーマで自分自身の「問い」を立て、学期中にグループでキーワード対話を、学期末にグループまたは個人でキーワード発表をします。

<授業の目標>

1. 授業で扱う文化と社会に関する用語・考え方について説明することができる。
2. 授業で扱う文化と社会に関する用語・考え方について、自分の体験を通して捉えることができる。
3. 文化や社会において生じる問題に適切に対処することができる
4. 文化・社会に関するトピックについて問いを立て、対話を通してその答えを探求することができる。

<授業の構成>

ワークや話し合いを中心に、1,2コマごとに1つのテーマを扱います。

授業の終わりには、学びを振り返り、その日の授業のテーマに関する自分の意見をまとめて提出します。

学習内容(予定)

コースの序盤では、ワークを通して文化についての基本的な用語や概念について理解します(1-3回)。

コースの中盤では、現代社会から考える社会文化(4-7回)、アートから考える社会文化(8-9回)をテーマとしてワークやディスカッションをします。

10回には学部のゼミクラス、社会文化入門234クラスとの合同授業をします(予定)。

コースの終盤では、文化・社会に関するテーマについて自分たちで問いを立て発表します(11-14)。

15回にはコース全体をクラスで振り返ります。

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 10%

振り返り 30%

宿題(自己評価・他者評価シートの提出) 10%

課題 20% (キーワード対話)

最終課題 30% (キーワード発表)

履修上の注意点

1. 課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
2. 授業中に資料の配布やワークシートの提出はオンライン上で行うため、各自パソコンまたはタブレットを持参してください。

時事日本語6・7	徳永 あかね	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		金曜日2限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、日本国内のニュースを観たり、報道記事を読むことを通して、日本社会の時事問題やその背景を理解し、自分でニュースを調べ、関連した情報を探せるようになることを目指します。

コースの前半では、日本のニュースを視聴し、ニュース記事やそれに関連した資料を通してニュースの背景知識を深めることを目指します。コースの中盤では、履修する学生自身が授業で取り上げる日本のニュースを選びます。そのニュースに関連した資料を協力して探し、ニュースの背景知識を自分たちで読み解くことを目指します。コースの後半には、各自がニュース記事を2つ選び、それぞれに関連した資料を自分で探し、自分の視点で2つのニュースの相違点がどこから生じるのかを読み解きます。この2つのニュース記事についての自分の意見をクラスメートやゲストに発表し、意見交換をすることでニュースに関する複数の視点を得ることを目指します。

なお、コースの前半・中盤では、毎週、実際のニュース(1~2分)観て、スクリプトを読む予習課題(宿題)や、授業で取り上げたニュースに関連して自分の意見を書く振り返りシート課題を課します。

到達目標

(1)言語能力(Linguistic Competence)

- ・日本語のニュースの聞き取りや日本語で書かれた記事を読んで理解できる。

- ・ニュースに関連する資料の大意が把握できる。
- ・母国語のニュース内容の要点を日本語に訳し、適切な文体で書くことができる。

(2) 社会言語能力 (Sociolinguistic Competence)

- ・報道に使われる語彙や表現、文体の特徴を理解する。
- ・ディスカッションにおいて相手や話題に応じた日本語を選ぶことができる。

(3) 社会文化能力 (Sociocultural Competence)

- ・日本社会の時事問題やその背景を理解する。
- ・日本のニュースの伝え方を母国や他国と比較することで、日本社会への理解を深める。
- ・日本に関する報道を理解するための基本的な日本の社会常識を理解する。

学習内容(予定)

	授業日	領域	時事問題の題材	提出課題
1	9月16日(金)		*クラスオリエンテーション 政治に関するニュース	「ふりかえり」
2	9月23日(金)		社会に関するニュース	「ふりかえり」
3	9月30日(金)		経済に関するニュース	「ふりかえり」
4	10月7日(金)		政治に関するニュース	「ふりかえり」
5	10月14日(金)		社会に関するニュース *最新のニュース選定	「ふりかえり」 取り上げたいニュース
6	10月28日(金)	※最新のニュースから、自分たちで選んだ ニュースを使います。		「ふりかえり」
7	11月4日(金)			「ふりかえり」
8	11月11日(金)			「ふりかえり」
9	11月18日(金)			「ふりかえり」
10	12月2日(金)			「ふりかえり」
11	12月9日(金)		最終課題1 最終課題で取り上げるニュースを選ぶ 日本のニュース、母国のニュース	選んだニュースのURLと 選択理由
12	12月16日(金)		最終課題2 母国のニュースとの比較1	下書き

13	12月23日(金)	最終課題3 母国のニュースとの比較2 ※パワーポイントファイルにまとめる	下書き
14	1月6日(金)	発表のリハーサル	下書き
15	1月13日(金)	発表とディスカッション ※社会人ビジターが参加します。	パワーポイント提出 (1月16日月曜日)

教材

Web上にある実際のニュースを教材として使用します。

成績評価

【授業参加度 20%】

授業中への取り組み、課題への取り組み、ペア活動、グループ活動への参加態度を評価します。

【予習課題 20%】

授業で取り上げるニュース番組をあらかじめ視聴し、スクリプトを読み、ニュースの内容を理解しておいてください。

【振り返り課題 30%】

コースの前半、中盤に授業で取り上げたニュースに関連して自分が考えたこと、自分の解釈について書いてください。振り返りは、授業の終わりの時間を使って、指定された場所にコメントを投稿します。

【最終課題 30%】

同じような内容のニュースが社会背景の違いにより異なる報道をしていることを自分自身の視点で読み解き、発表します、具体的には、日本のあるニュースと母国や他の国のニュースとを比較し、それぞれのニュースの関連資料を調べてどこが同じでどこが違うのかを読み解きます。ではどのように報道されているかを調べ、日本語の報道と比較し、分析します。

分かったことをパワーポイントにまとめ、発表します。

履修上の注意点

1. 課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
2. 授業の時間中にニュースに関係する資料をインターネットで検索する必要があります。各自のノートPCやタブレットを持参してください。

日本語文化7	岩本 遠億	2単位
		選択科目
		春学期・秋学期開講
		金曜日5限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

この科目は、日本語の文法の中に見られる日本文化、すなわち「日本語的発想」について日本語上級学習者がより深く、また正しく理解できるようになることを目的としています。日本語は、しばしば「自我が未発達な言語」と呼ばれたりします。それは、主語や1人称代名詞(「わたし」など)が省略されることが多いため、話者が誰について、また、何について話をしているのかが、日本語学習者には分からないことが多いからです。しかし、日本語の文法体系を詳しく見ていくと、日本語は「話者中心性」が非常に強い言語であることがわかります。この強い「話者中心性」の文法構造があるため、主語や1人称代名詞を省略しても、話者が誰について、何について語っているかを聞き手は理解することができるのです。省略の多い文でも日本語母語話者同士で解釈にズレが生じないのはこのためです。この「話者中心性」は、構文、語彙、指示、テンス・アスペクトなど、日本語文法の様々なところに現れます。この科目では、これらが文法的、意味的規則に従っているということを議論した主要な文献を一緒に読むことを通して、日本語文法の隠れた原則について見ていくことにします。

学習内容(予定)

不思議な日本語。それは文化か？構造か？「自分勝手な日本語」

授与動詞、人称制限、人称代名詞、指示詞、談話管理理論、「は」と「が」、モダリティ表現「よ」「ね」「のだ」、省略、普通体世界と丁寧体世界

教材

授業で配布、紹介します。

課題

・予習および発表

予習課題(リーディングアサインメント)を読んで、ノートにまとめてから授業に出席する。授業では内容について受講者に発表してもらおうと共にディスカッションをする。

・授業中に提示される研究課題から二つを選び、中間レポートと期末レポートを提出する。

成績評価

「予習・発表・ディスカッション」50%

中間レポート 25%

期末レポート 25%

学習進度により、受講者と協議の上変更の可能性あり。

履修上の注意点

・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

Japanese Sociolinguistics

2022 FALL SEMESTER

NAME OF COURSE: JAPANESE SOCIOLOGUISTICS B

INSTRUCTOR: Sau Kuen FAN, PH.D.

Course description

This course aims to introduce students to the field of sociolinguistics, with a special focus on sociolinguistic issues which are significant in the Japanese society. In this semester the focus will be placed on “Language behavior: politeness in Japanese”. More specifically, we will discuss the relationship between politeness and different types of language behavior, e.g. apologies, compliments, disagreements and complaints. We will also look at how politeness is manipulated in different communication situations such as first-time meetings. It is expected that through gaining basic knowledge about how Japanese language is used in the society, students can develop their ability and confidence to interact with Japanese native speakers.

Language of instruction

While lectures will be mainly delivered in English, some competence in Japanese is required for participation in discussion due to the nature of the course (i.e. dealing with the use of Japanese in society). All written works should be submitted in English. Note that this is NOT a language course. Students can communicate with the lecturer freely in either English or Japanese and will not be assessed based on the level of language ability.

Requirements

1. Students should be familiar with reading and writing academic papers in English. Non-native speakers of English who have achieved a score of 500 or above in TOEFL (or equivalent) are welcome to take this course.
2. No previous study of sociolinguistics or linguistics is required although experience of learning a foreign / second language and previous contact with Japanese native speakers is desirable.

Quota for this course

A maximum number of 15.

Class meetings

Tuesday Period 5 (16:30 - 18:00 Japan time)

Method of presentation

Classes will be held online in form of a combination of face-to-face class meetings (weekly) and on-demand activities. Prior to the start of each class, students should go through the lecture notes and brainstorming Q&A provided by the lecturer in advance. In each class meeting, the lecturer will explain the main contents by showing PowerPoint slides through shared screen. Students are encouraged to participate in discussion according to their own learning experience of Japanese. Students in the course will be provided opportunities to collect firsthand data from Japanese native speakers (mainly KUIS students) for the preparation of their final report.

References

Lecture notes, readings for assignments and other references will be available in KUIS Moodle.

Grading Policy

Class participation and weekly feedback sheets	30%
Reading assignment	10%
Mini survey	10%
Presentation	10%
Final report (Portfolio)	40%

2022年度 神田外語大学留学生別科 科目概要 選択科目

2022年9月発行

編集・発行 神田外語大学留学生別科

〒261-0014 千葉県美浜区若葉1-4-1

電話番号043-273-2056

無断転載を禁じます